家畜改良センターが最多
2位は栃木県・小針勤さん
令和3年度検定成績証明より

日本ホル協は、このほど令和3年度都府県検定成績証明を取りまとめた。令和3年度は4174件、前年度比99・8％と微減であったが、今回はコロナ禍にあっても多数の証明を行い、素晴らしい成績を収められた酪農家の方々の紹介と、自動継続発行で利用できるRIUSを紹介したい。

検定成績証明とは、牛群検定で得られた泌乳記録を証明するものである。証明書には本牛を含め、4代の血統情報や審査情報、遺伝評価値、共進会賞歴などが記載されており、証明書1枚で様々な改良情報を集約して確認できるため、より効率的な改良をサポートする。また証明牛のうち、優秀牛は生涯検定牛として選奨され、証明書に表示（金・銀・銅賞）されるほか、乳量・乳脂量の証明記録が都府県記録等を更新した場合は検定成績優秀牛として表彰される。加えて、高能力牛は本紙や酪農関係雑誌等への掲載、日本ホル協のWebサイトに公表される。

最多証明は家畜改良センター

令和3年度検定成績証明の都府県証明件数は全体で4174件であった。証明件数が30件以上の酪農家を表に取りまとめたところ、100件以上の証明が8農家、50件以上が14農家、30件以上が27農家となり、特に（独）家畜改良センターは証明件数321件で1位となった。2位は栃木県の小針勤さん165件、3位は埼玉県の（有）加藤牧場160件で、この3農家だけで総証明件数の15・4％を占めている。またこれらの酪農家は平均F偏差値も高く、毎月本紙で掲載している検定成績優秀牛の紹介にも同農場の牛が登場するように、牛群・個体ともに素晴らしい成績を収めている。

なお、表中の＊は、自動継続発行を示しており、先に紹介した証明件数の多い酪農家の方々が自動継続発行を利用していることがわかる。

検定成績証明の自動継続発行とは

検定成績証明の自動継続発行とは、一度申請すれば、申請年度（または月）以降に分娩した登録牛全頭の検定期間が終了する度に、1証明につき1枚の証明書が自動的に発行されるようになる。

自動継続発行では、申込書での1頭毎の申込みが不要となることや申込み忘れを防ぐなど、手間なく自動で検定成績証明書を発行することができる。また、自動継続発行を開始すると次に紹介するRIUSを利用することができる。

表　令和３年度検定成績証明農家　（証明件数順）

自	継	氏名	都府県	検定成績証明件数	平均F偏差値
1	＊	(独)家畜改良ｾﾝﾀｰ	福島県	321	215.8
2	＊	小針　勤	栃木県	165	168.8
3	＊	(有)加藤牧場	埼玉県	160	155.9
4	＊	植木　靖	栃木県	136	136.4
5	＊	小林　篤史	栃木県	114	144.2
6	＊	松島　太一	熊本県	111	145.9
7	＊	糟谷　英文	千葉県	110	115.3
8	＊	髙橋　憲二	千葉県	104	117.2
9	＊	髙田　茂	埼玉県	93	153.1
10	＊	新海　益二郎	長野県	92	170.7
11	＊	永森　洋一	栃木県	71	139.5
12	＊	千葉　準一	青森県	70	121.8
13	＊	伊藤　博	千葉県	67	117.5
14	＊	新永　文治	熊本県	63	172.6
16	＊	(農)新林牧場	秋田県	59	108.8
16	＊	駒場　靖史	栃木県	59	160.1
18	＊	佐藤　範之	茨城県	58	171.3
18	＊	中村　優	岩手県	58	120.8
19	＊	(有)渡辺ﾌｧｰﾑ	宮城県	54	126.8
20	＊	八幡　勝幸	岩手県	53	148.2
21	＊	岩泉　篤	岩手県	52	154.9
22	＊	山之内　浩一	新潟県	51	156.0
24	＊	千葉　雪生	秋田県	49	102.2
24	＊	小林　政幸	長野県	49	136.2
26	＊	山下　和成	岐阜県	48	162.6
26	＊	(株)ﾌﾞﾙｰﾊﾞﾝﾌﾞｰﾌｧｰﾑ	埼玉県	48	125.4
27	＊	山本　訓	栃木県	47	140.3
28	＊	中六角　保広	岩手県	46	152.6
30		星野　和司	群馬県	45	151.2
30		石川　和博	静岡県	45	144.8
31	＊	畠山　伸吾	秋田県	44	153.3
32	＊	川田　佳男	栃木県	43	122.0
33	＊	小里　有弘	茨城県	42	145.2
34	＊	高橋　洋一	新潟県	41	150.7
35	＊	菅原　雅継	岩手県	40	145.1
38	＊	鈴木　篤	埼玉県	39	136.0
38		矢内　孝久	群馬県	39	198.1
38	＊	(株)ＧＲＦﾎﾙｽﾀｲﾝｽﾞ	岩手県	39	124.0
41	＊	松本　陽一	埼玉県	37	134.6
41		妹尾　優佳	岡山県	37	182.7
41	＊	荒井　健文	栃木県	37	114.9
42	＊	村澤　由明	岩手県	36	122.9
46	＊	宮垣　俊介	岐阜県	34	168.2
46	＊	臼井　重忠	栃木県	34	127.2
46	＊	吉田　仁治	新潟県	34	194.8
46	＊	前田　勉	長野県	34	132.9
47	＊	(株)荒木牧場	熊本県	31	192.6
49	＊	原　護	兵庫県	30	135.6
49	＊	佐藤　晃	茨城県	30	134.5

改良情報をまとめてRIUSで確認

RIUS（ライアス：登録情報活用システム）は、検定成績証明書をスマートフォンやパソコンで簡単に閲覧できるWebシステムである。

RIUSでは証明書の閲覧だけでなく、紙面の制約で証明書に表示しきれなかった血統情報や審査成績、さらには共進会賞歴や系統譜（分娩情報）もそれぞれのWeb画面で参照することができる。

さらに、RIUSは個体情報だけでなく歴代成績も見ることができ、牛群内で過去に証明された成績を基に、乳量順や乳成分量順等に並べ替え、他の牛と比較しながら見ることも可能である。

また、RIUSにログインするとそれぞれのページでログインすることなく、近交情報システムWebや牛群遺伝情報Web、自動登録同時SNP農家還元情報Webへ簡単にアクセスでき、改良情報を集約して確認することができる。

RIUSを活用して牛群改良の推進を

RIUSを利用するには、検定成績証明の自動継続発行農家であることが必要だが、まだ自動継続発行を行っていない方や興味のある方向けに、デモサイトを公開している。図の二次元コード、または日本ホル協Webサイトからもアクセスすることが可能で、サイト内の「ヘルプ」にある操作手引書を参照の上、各情報画面などの表示内容や操作性を試していただきたい。

二次元コード

日本ホル協特集

令和4年度前期
都府県体型審査概要
厳しい状況下でも微減にとどまる

令和4年度前期の体型審査は、7月中旬をもって全ての日程が終了した。3年目を迎えたコロナ禍において会員並びに支部・承認団体のほか、関係各位の多大なる理解・協力により概ね予定どおりの審査日程を実施することができた。

また、コロナ禍による需給の大幅緩和とこれに伴う脱脂粉乳の在庫急増、ウクライナ情勢と円安の進行に伴う輸入飼料価格等の大幅値上げ等から、全国的に生産費が急上昇し、生乳生産基盤を確保するうえで極めて危機的な状況となった。

このような厳しい酪農情勢下、前期の体型審査においても会員の受検控えによる実績の激減が危惧されたものの、受検戸数・頭数ともに激減することなく終了することとなり、まずは本紙面を通して皆様方に心より感謝を申し上げたい。

審査頭数は前年同期比93％

都府県における前期の体型審査は、コロナ禍による感染防止対策のほか、後代検定材料娘牛の不在、または未分娩などの理由から6県が未実施となった一方、40都府県で予定どおり実施することができた。全審査頭数の合計は8699頭となり、前年同期との比較では657頭減（93％）となった。

審査頭数の内訳では、ホルスタイン種の牛群・奨励審査は3991頭（17戸・330頭減）、体型調査は3810頭（23戸・579頭減）、搾乳ロボット適合性調査は837頭（22戸・255頭増）となった。

また、ジャージー種の審査頭数は54頭（1戸・8頭減）で、ブラウンスイス種は7頭（1戸・7頭増）となった。

審査頭数1位は岩手県

都府県別の状況をみると、牛群・奨励審査頭数では岩手県が628頭で最も多く、以下熊本県384頭、群馬県294頭、栃木県222頭、千葉県171頭、宮崎県168頭と続き、この上位6県の審査頭数は都府県全体の約半数となる47％を占める。

また、後代検定体型調査は、各県計画頭数に基づき473戸を巡回し、材料娘牛917頭、同期牛2893頭、計3810頭の体型データを収集。前年同期との比較では、23戸・材料娘牛64頭・同期牛515頭、計579頭の減少となり、計画対比で50・4％の実施となった。調査頭数では、熊本県が588頭で最も多く、以下岩手県495頭、群馬県410頭、栃木県266頭、鹿児島県208頭、愛知県191頭の順となった。

一方、将来の搾乳ロボット適合指数開発に向けたロボット調査では、各県計画頭数に基づき74戸を巡回し、837頭の体型データを収集。前年同期との比較では22戸・255頭の増加となり、計画対比で46・5％の実施となった。調査頭数では岩手県が127頭で最も多く、以下愛知県95頭、千葉県60頭、熊本県50頭、宮崎県47頭と続き、牛群・奨励審査・体型調査・ロボット調査の合計では、岩手県が1250頭で最も多く、以下2位の熊本県1022頭に228頭の差をつける結果となった。次いで3位群馬県704頭、4位栃木県518頭、5位愛知県445頭、6位岡山県354頭となり、上位6県で都府県前期の全審査頭数の50％を占める結果となった。

今般の厳しい酪農情勢下にも拘らず、牛群・奨励審査は審査頭数こそ30減少したものの、審査戸数は17戸の減少に留まった。受検農家のより一層の高い改良意欲により、継続して体型審査を受検していただいたことに深謝申し上げたい。

経営改善のために改良を

周知のとおり、全国の広域指定団体と大手乳業メーカーとの乳価期中改定を巡る交渉により、2013年以来9年ぶりに11月1日出荷分から飲用向け・発酵向けが10円／kg値上げされる予定となった。一方、今後の乳価値上げに伴い飲用需要が厳しくなることで、酪農経営は更に厳しい状況を迎えると考えられる。生産者の方々におかれては、貯蓄の切り崩しや資金の借り入れのほか、様々なコスト削減に向け努力されていると思われるが、乳牛の血統登録は改良の原点であり、改良は作業の効率化・コスト低減をはじめ酪農経営の改善に極めて有効な手段である。引き続き、体型審査並びに後代検定体型調査・搾乳ロボット適合性調査の実施に会員並びに支部・承認団体のほか、関係各位のご理解とご協力をお願いしたい。

表1　令和4年度前期牛群審査・体型調査等の実施状況

県名	牛群審査 戸数	頭数	奨励個体	合計	対前年比 戸数	頭数	後代検定体型調査 戸数	頭数	対前年比 戸数	頭数	計画 頭数	残り 頭数	ロボット適合性調査 戸数	頭数	対前年比 戸数	頭数	計画 頭数	残り 頭数
青森	9	92	2	94		20	3	23	△3	△39	90	67					20	20
岩手	51	593	35	628	1	△66	57	495		△144	840	345	19	127	6	43	50	△77
宮城	9	135	5	140	9	140	7	62	7	62	100	38					50	50
秋田	7	35	6	41		1	7	46		△21	180	134	2	38	2	38	80	42
山形	12	63	12	75	1	2	11	85	△1		100	15			△2	△14	30	30
福島	13	139	3	142	△1	12	10	96	△4	12	165	69	1	20	△1	3	30	10
茨城	12	99	1	100	△3	△36	10	91	1	△18	200	109	2	34	1	15	100	66
栃木	22	202	20	222	△1	9	27	266	11	100	350	84	2	30	1	13	100	70
群馬	29	269	25	294	△6	△50	50	410	△1	△72	780	370					50	50
埼玉	2	43		43	△1	3	1	3	△3	△22	50	47	1	10	1	10	10	
千葉	17	157	14	171	△7	△210	11	72	△9	△214	270	198	3	60	1	26	50	△10
東京	6	27		27	1	△6	1	4	△2	△7	30	26					10	10
神奈川	4	25		25	△2	△18	1	4		△5	40	36					10	10
新潟	11	83	17	100	△2	17	6	27	△1	△8	70	43	1	6		△10	20	14
富山	1	12		12		1	2	22	△2	△8	50	28	1	13		△3	20	7
石川	2	14		14	2	14	1	8	1	8	15	7	1	7	1	7	10	3
福井											20	20					10	10
山梨	6	107	9	116		19	3	43	△2	△24	50	7	2	26	1	13	30	4
長野	14	93	5	98	△1	△35	9	72	4	23	180	108					30	30
岐阜	6	63		63		△4	6	32	△2	△13	120	88	2	40		6	40	
静岡	6	70		70		18	4	24	△3	△17	90	66	2	32		△5	80	48
愛知	9	159		159	△6	△47	20	191	4	48	280	89	7	95	6	87	80	△15
三重	1	3		3	1	3	1	11	1	11	25	14	1	12	1	12	10	△2
滋賀	1	4		4			6	51		17	100	49			△1	△9	50	50
京都	3	14		14	△1	△29	2	18		3	35	17	1	10	1	10	20	10
大阪									△2	△15	15	15			△1	△10	10	10
兵庫	6	46		46	△7	△54	12	75	△4	△7	100	25	2	27		14	50	23
奈良											5	5						
和歌山																		
鳥取											300	300					90	90
島根	3	37		37	1	13	4	48	1	17	50	2	2	22	1	6	20	△2
岡山	10	164		164	4	30	25	150	6	△10	250	100	2	40		2	50	10
広島	6	15	5	20		△13	6	45	△5	△23	80	35	2	23	2	23	20	△3
山口	3	11	1	12	3	12	8	84	8	84	90	6					10	10
徳島	3	27	5	32		17	3	26	△2	△5	50	24	1	19		△1	20	1
香川							3	18	△1	3	30	12					20	20
愛媛	6	106		106		32	14	90	1	5	120	30						
高知	3	31		31		6	3	17	1	1	40	23					10	10
福岡	18	148	9	157	1	△38	18	123	△14	△109	350	227			△1	△20	50	50
佐賀	1	10		10	△1	△12	4	15	1	3	20	5	5	39	1	5	40	1
長崎	2	7		7	△2	△12	2	14	△2	△21	50	36			△1	△20	20	20
熊本	35	364	20	384	1	△28	65	588	△3	△44	1,000	412	5	50		△12	150	100
大分	8	98		98	1	△2	5	44	2	22	40	△4	1	10		5	40	30
宮崎	18	162	6	168		△50	17	109	3	△79	250	141	6	47	5	31	100	53
鹿児島	6	63	1	64	1	37	28	208	△1	△48	450	242					100	100
沖縄					△3	△26			△8	△25	40	40			△2	△10	10	10
合計	381	3,790	201	3,991	△17	△330	473	3,810	△23	△579	7,560	3,750	74	837	22	255	1,800	963

令和４年度ジャジング・スクール
2022
JUDGING SCHOOL in ぐんま
●とき
11月11日(金)
11月12日(土)
●パネラー
高橋 直人 氏
ストレートマン
キャトルケアサービス代表
●ところ
会場：前橋家畜市場（前橋市元総社町395　TEL027-252-9896）
公共交通機関：ＪＲ高崎駅から上越線・両毛線下りにて新前橋駅下車、徒歩６分
自家用車　：関越自動車道・前橋Ｉ.Ｃより約３㎞（駐車場有り）
●参加費
6,000円（１名当り）
●内容
研修会：乳牛の見方・ショウ審査の手引ほか
序列付：未経産・経産 各クラスの審査・序列付け
※新型コロナウイルス感染状況、家畜伝染病の感染状況に応じて中止する場合があります。
主催
全国ホルスタイン改良協議会
（一社）日本ホルスタイン登録協会　事業部審査課内
TEL：03-3383-2501　FAX：03-3383-2503
共催
群馬県乳牛改良協会

社員補欠選挙当選者

社員辞任に伴う補欠選挙が愛媛県及び熊本県で8月16日に実施され、無投票で当選者が決定したので公示します。

（敬称略）

◇第46区（愛媛県）
京森大輔

◇第52区（熊本県1）
西本道靖

きたふじ牧場様（北海道広尾町）　飼養頭数●107頭（経産牛）　搾乳頭数●94頭（内、ロボット搾乳：47頭）　哺育頭数●11頭
従業員●北藤敦博代表（写真右）/厚子様/紘樹様（写真左）　導入機器●R9500/カウスカウト/MoovPro

家族経営にこそ「搾乳ロボット」を

北海道広尾町のきたふじ牧場様には、かねてからビジョンがあった。

「従来施設（アブレストパーラー）の家族経営で大きな負担となる搾乳作業など、日々の作業を軽減し、頻回搾乳を実現したい。そのために『搾乳ロボット』という選択肢をイメージとして持ち続けていた。

GEAの搾乳ロボットの話を聞く機会があり、R9500の搾乳工程の早さ、ロボットへスムーズに牛が入る点が気に入り、導入へ踏み切った。

負担軽減、乳量増。導入による変化

一番大きかったのは**「体力的な余裕」**ができた事。また、左右の乳頭が近い牛にも装着できる点も好評だ。頻回搾乳の効果もあり、現在ロボット搾乳群の1頭当たりの乳量は45kg／日前後をキープ。**「R9500は一人でほぼ問題なく作業でき、アプリ操作も簡単に覚えられた」**と紘樹さん。

また、カウスカウト導入で発情発見率が向上。**「目視では見つけられなかった発情も発見できています。今までは人が牛を直接観察する作業が多かったですが、パソコンで拾い上げたデータを元に見に行けば良くなったので、精神的な負担もかなり減りました」**と喜ぶ。

同牧場ではエサ寄せの重要性も考えており、MoovProの実機を目にした際に**「ミスが少なくて良い」**と導入を決断。導入後は無人で10回／日のエサ寄せが可能に。常に飼料が飼槽にある状態が保持できており、日中の畑作業に集中できるようになった。エサの少ない夕方の時間帯にも細かいスパンでエサ寄せできるので弱い牛も食べ損なうことがなくなったという。

今後の目標

「今ある施設を最大限に活かし、生産効率を上げていきたい」と北藤代表。また、**「牛たちが可能な限り採食と休息ができる様に、待機場入場から搾乳終了までの時間をさらに短縮できる工夫をしたい」**と次なるビジョンを語ってくれた。

ORION INFORMATION
オリオングループのSDGsの取組み

オリオン機械では、脱炭素に向けた製品開発、省エネ機械の開発、販売をしています。また、千歳から九州への酪農機器輸送をトラック便から船便に転換することで配送時のCO_2排出を大幅に削減（削減率76%）することができました。SDGs達成のため、社員一丸となって環境負荷の低減や地域貢献に取り組んでいます。これからもオリオングループでは、お客様とともに未来を創造して参ります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

オリオン機械株式会社
www.orionkikai.co.jp
北海道オリオン株式会社　tel.011-865-3111
中央オリオン株式会社　tel.048-522-5395
西日本オリオン株式会社　tel.092-477-8480
Facebook　YouTube